

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ウガンダ共和国

ナラウェヨ・キシータ地域開発プログラム(UGA-181728)



農園で育てたトウモロコシを収穫するジュニスちゃん(12歳)

朝食に茹でたトウモロコシを食べます

収穫が増え、家にいつも食料が十分にあることがうれしいです



バナナを収穫するディナさん

チャイルドストーリー

近代的な農法により収穫が増え、収入が増えました

ナラウェヨ・キシータ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域に住むジュニスちゃんの家族は、ADPからトウモロコシや豆の種、オレンジやマンゴーの苗の提供を受け、農園で栽培しています。収穫したトウモロコシは8人家族の食卓に並ぶだけでなく、乾燥して粉にし、販売して生活費を得るのに役立っています。ジュニスちゃんの母親、ディナさんは、「近代的な農法や農産物に付加価値を付ける方法、収穫後の農産物の扱い方について

訓練を受け、収穫と収入が増えました」と言います。「以前は収穫量が少なく、作物を売る余裕がありませんでした。しかし、近代的な農法を導入してから収穫量が増え、バナナ、トウモロコシ、豆を売って得たお金で、草ぶきの家を新しい丈夫な家に建て直すことができました。」小学校6年生のジュニスちゃんも、両親が農作物を売って得たお金で、服や本を買ってもらえるようになったと喜んでいきます。

保健・HIV/エイズ対策プロジェクト

村・家庭レベルで適切な医療サービスを受けられるよう取り組んでいます



蚊帳の中で寝る5歳未満の子どもが **96.1%** に増加

2014年度は、HIV/エイズや下痢、マラリアの予防、栄養管理、子どもの予防接種などを、地域全体に普及させることに注力しました。具体的には、31の村や保健センターで、5歳未満の子どもたちに対して、病気を未然に予防するための対策を行いました。蚊帳の中で眠る5歳未満の子どもが96.1%に増え、この結果、マラリアの感染率は2013年度の35.2%から2014年度は33.8%に減少しました。下痢にか

かる子どもの割合は、27.1% (2013年度) から26.3% (2014年度) に減少しました。

また、病気の診断を受けた子どもたちが適切な処置を受けるケースも増えました。マラリアに感染し治療を受けた子どもの割合は、2012年の59.5%から、2014年度は90.5%に増加し、下痢の場合も、62.9%の子どもたちが経口補水液やアルミニウム化合物による処置を受けました。



子どもの予防接種のために保健センターに集まる母親たち



子どもの栄養状態を確認するための身体測定の様子

教育プロジェクト

地域の行政や住民代表と協働して、
子どもたちが質の高い教育を受けられるよう取り組んでいます

2014年度は、子どもの教育に対する保護者の理解を得るために、学習環境の改善や保護者の学校行事への参加促進などに力を入れました。この結果、保護者の意識も変わり始め、子どもが宿題をする際に見守ったり、勉強に必要な備品をそろえたりするようになり、何より子どもたちが学校へ通うことへの理解が深まりました。学校行事への保護者の参加率は、2012年の45.4%から、2014年度は69.2%に増加しました。小学校を中退する子どもの割合も、2012年の15%から2014年度は11.7%に減少しました。

2013年11月に実施された初等教育修了試験には、受験した子どものうち86.4%が合格できました。



ADPの支援で建設された新しい校舎



小学校を中退する子どもの割合が減少

15% (2012年) → **11.7%** (2014年)

生活改善プロジェクト

子どもたちの生活環境が改善され、
病気への感染が減少しつつあります

2014年度も農家を対象に、農業の生産性向上や、収穫物の保管、また収入向上に関する技術研修を行いました。これにより、年間を通じて食料を得られる世帯は53.0% (2013年度) から58.6% (2014年度) に増加しました。また、栄養バランスのとれた食事を摂ることができる子どもたちも58.0% (2013年度) から85.7% (2014年度) に増加し、5歳未満の低体重児は2012年の2.7%から1.5% (2014年度) に減少しました。

また、2014年度は4基の深井戸を掘りました。この結果、安全で清潔な飲み水を手入れできる世帯は、2013年度の83.0%から2014年度は85.7%に増えました。さらに、環境改善の習慣を身につけるよう地域に対して働きかけた結果、トイレが整い、ゴミ箱の設置や井戸やトイレの清掃などの習慣が身についた世帯が、36.0% (2013年度) から2014年度は77.4% (1,198世帯) に増加しました。



農業の研修を受けて、以前より多くの米を収穫できるようになりました



ADPの支援で完成した井戸から水を汲む子どもたち



深井戸 **4** 基新設 トイレが整った家 **1,198** 世帯



支援地域の女性のインタビュー

作物を育てて売ることができるようになりました

Q. あなたは子どものころ学校に通いましたか？

はい。10歳で小学校に入学しました。しかし5年生の時に父が亡くなり、退学せざるを得ませんでした。

Q. 家族構成を教えてください。

私は15歳の時に結婚しました。現在40歳の夫との間に16歳から2歳までの7人の子どもがいます。

Q. ADPではどんな活動に参加していますか。

夫は農民グループの一員です。私も夫と一緒にトウモロコシ、豆、落花生、パイナップル、バナナといった作物や、ニワトリ、ヤギ、牛などの家畜を育てています。

Q. ADPの活動に参加して生活は変わりましたか。

作物を育てて売ることができるようになりました。学校に通う子どもたちのために練習帳やペンを買ひ、お昼ご飯も持たせてあげられるようになりました。ADPからはこれまでに、蚊帳、毛布、作物の種、ヤギ4頭を支援してもらいました。ヤギは子どもを産んで増えました。支

援に心から感謝しています。

Q. あなたの夢を教えてください。

子どもたちに教育を受けさせることが今の私の夢です。私は十分な教育を受けることができませんでした。子どもたちは教育を受け、将来良い生活を送って欲しいです。



子どもたちと豆を仕分けるメディウスさん (32歳)



ADPスタッフ・インタビュー

Q.ADPでどんな仕事をしていますか。

クリスマスカードや手紙、成長報告の作成など、子どもたちとチャイルド・スポンサーの交流にかかわる仕事や、教育、保健、HIV/エイズ対策、水衛生、生活改善分野の活動の実施促進を担当しています。

Q. 仕事をする中で大変なことは何ですか。

2014年は様々な理由でスタッフが減ったため大変でした。地域のボランティアの人たちと協働して何とか頑張りました。

Q. この仕事の何にやりがいを感じていますか。

貧しく弱い立場にある人たち、特に子どもたちを助けることにやりがいを感じています。



ナラウェヨ・キシータADPスタッフ ジェーン・アミト(左、30歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



ADPで行われた子どものための集会の様子

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

会計報告

UGA-181728

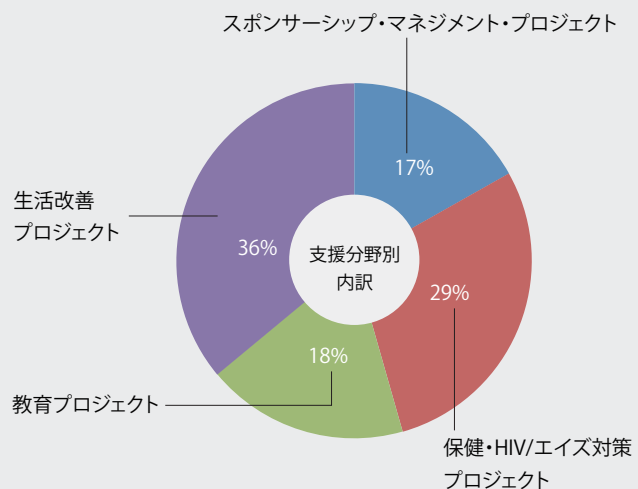
収支計算書 自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	40,848,509
当期支援額	40,848,509
前期繰越金	3,784,225
プログラム支援額合計	44,632,734

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	7,431,571
保健・HIV/エイズ対策プロジェクト	12,698,315
教育プロジェクト	8,128,295
生活改善プロジェクト	15,905,079
プログラム支出額合計	44,163,260
次期繰越額	469,474



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話 : 03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)

FAX : 03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ : www.worldvision.jp

e-mail : dservice@worldvision.or.jp